

又ますだ 市議会だより



匹見川の涼しい夏

次回定例会の予定【案】は

9月2日(水)～25日(金)です。

なお、正式決定は8月下旬の議会運営委員会で行います。議会事務局までお問い合わせ下さい。
(☎31-0490)

◆ 編集・発行：島根県益田市議会
〒698-8650 益田市常盤町1番1号
TEL 31-0490 FAX 23-0920
Eメールアドレス gikai@city.masuda.lg.jp

第466回

6月定例会市議会

6月定例会市議会は、6月8日から25日までの18日間開催されました。会期中に審議した案件は、予算議案3件、条例議案2件、一般議案2件、報告15件及び議員提出の人事議案1件、一般議案1件、意見書2件、その他請願4件、陳情3件でした。
また、市政全般にわたって、12名の議員が一般質問を行いました。

6 月 議 会 の 審 議 結 果

議案番号	議 決 案 件	議決結果	議決態様
(市長提出議案)			
報第13号	専決処分の報告について	報 告	
議第90号	平成21年度益田市一般会計補正予算第2号	可 決	挙手全員
議第91号	平成21年度益田市国民健康保険事業特別会計補正予算第1号	可 決	挙手全員
議第92号	過疎地域における固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例制定について	可 決	挙手全員
議第93号	益田市手数料条例の一部を改正する条例制定について	可 決	挙手全員
議第94号	町の区域の変更について	可 決	挙手全員
議第95号	市道路線の認定について	可 決	挙手全員
報第14号	繰越明許費繰越計算書について	報 告	
報第15号	益田市後期高齢者医療特別会計繰越明許費繰越計算書について	報 告	
報第16号	益田市簡易水道事業特別会計繰越明許費繰越計算書について	報 告	
報第17号	益田市造林受託事業特別会計繰越明許費繰越計算書について	報 告	
報第18号	益田市匹見財産区特別会計繰越明許費繰越計算書について	報 告	
報第19号	益田市公共下水道事業特別会計繰越明許費繰越計算書について	報 告	
報第20号	益田市土地区画整理事業特別会計繰越明許費繰越計算書について	報 告	
報第21号	益田市水道事業会計予算繰越計算書について	報 告	
報第22号	平成20年度株式会社きのこハウス実績状況及び平成21年度事業計画について	報 告	
報第23号	平成20年度株式会社エイト実績状況及び平成21年度事業計画について	報 告	
報第24号	平成20年度株式会社ひきみ実績状況及び平成21年度事業計画について	報 告	
報第25号	平成20年度益田市土地開発公社実績状況及び平成21年度事業計画について	報 告	
議第96号	平成21年度益田市一般会計補正予算第3号	可 決	挙手全員
報第26号	平成20年度株式会社益田市総合サービス実績状況及び平成21年度事業計画について	報 告	
報第27号	平成20年度財団法人益田市文化スポーツ振興財団実績状況について	報 告	
(議員提出議案)			
選挙第1号	益田地区広域市町村圏事務組合議会議員の選挙について	選挙執行	
議第97号	就学前までの子どもの医療費無料制度を求める意見書について	可 決	挙手全員
議第98号	肝炎対策のための基本法制定を求める意見書について	可 決	挙手全員
	議員の派遣について	可 決	異議なし

今期議会で可決し関係機関に
提出した意見書

- 就学前までの子どもの医療費無料制度を求める意見書
- 肝炎対策のための基本法制定を求める意見書

お 悔 み

岡崎 宇顯議員が任期半ばにして、
去る4月3日にお亡くなりになりました。
生前のご功績を称え、心から
ご冥福をお祈り申し上げます。



第466回 定例会

こんなことが決まりました

平成21年度益田市一般会計補正予算・国民健康保険事業特別会計補正予算を議決

○平成21年度一般会計補正予算第2号及び第3号

は、国の地域活性化・経済危機対策臨時交付金の措置によるもの、県補助、交付金・助成金の追加認証によるもの及び、強風被害復旧被害関連、新型インフルエンザ発熱外来経費など、緊急な対応が必要となったものなど、事業の拡充のための補正が行われました。

補正額は10億15万9千円で、補正後の予算総額は232億3,399万2千円となります。

主な内容は、下表の通りです。

○平成21年度国民健康保険事業特別会計補正予算

第1号は、事業勘定に基づく補正が行われました。補正額は1,095万8千円で、補正後の予算総額は57億5,414万4千円となります。

一般会計補正予算第2号・第3号の主な内容

●地域活性化・経済危機対策臨時交付金に係る事業(31件)

6億8,351万1千円

- ・庁内情報機器整備
- ・総合福祉センター整備事業
- ・障害者就労支援施設公害対策事業
- ・高齢者等住宅リフォーム支援事業
- ・緊急信用保証料補給金
- ・単独道路改良事業
- ・安全な道づくり事業
- ・学校維持補修費

●国・県補助金等の追加認証による事業(9件)

2億8,630万4千円

- ・学校施設耐震化事業費
- ・都市公園緊急総合支援事業

条例の一部改正

●過疎地域における固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例制定について

過疎地域における固定資産税の課税免除に関する条例の改正。

●益田市手数料条例の一部を改正する条例制定について

長期優良住宅の普及の促進に関する法律の施行に伴う事務に関する必要の改正。

町の区域の変更

市原町に編入する区域

内田町口342番1

内田町口343番

市道の認定

・ひばりヶ丘ニュータウン1号線(乙吉町)下本郷町)

・ひばりヶ丘ニュータウン2号線(乙吉町)

・ひばりヶ丘ニュータウン3号線(乙吉町)下本郷町)

・高津浜7号線(高津五丁目)

報告事項

平成20年度一般会計、後期高齢者医療特別会計、簡易水道事業特別会計、造林受託事業特別会計、匹見財産区特別会計、公共下水道事業特別会計、土地区画整理事業特別会計、水道事業会計の繰越明許費繰越計算書が報告されました。

一般会計で繰越した事業は34事業で総額18億6,355万2千円です。

(株)きのこハウス、(株)エイト、(株)ひきみ、(株)益田市総合サービスなど、益田市が出資している各第三セクターの平成20年度の実績状況と平成21年度の事業計画について、また、益田市土地開発公社や財団法人益田市文化スポーツ財団の平成20年度の実績状況と平成21年度の事業計画についても報告がありました。

**本会議場の様子を
インターネットでご覧いただけます!!**



9月定例会から、一般質問の様子を録画中継します。

ぜひご覧下さい。(詳しくは、議会事務局までお問い合わせ下さい。☎31-0490)

みなさんからの請願・陳情審議結果

6月定例市議会受理分

請願番号	件 名	提 出 者	議決結果	議決態様
2	国直轄事業負担金の廃止を求める意見書の提出について	社会民主党島根県連合 代表 清水 勝	不採択	挙手多数
	地方の発展に直轄事業は重要であり、現在地方六団体をはじめ地方側から国直轄事業負担金の見直し等が提起されている。よって、今後の動向を見据えることが必要であると判断し、本件については不採択と決した。			
3	消費税の増税に反対する意見書の提出について	日本共産党益田市委員会 市委員長 下寺 共子	不採択	挙手多数
	国においてその方向性も未定の現状にあるので、その判断は今後の推移を見極めながらすべきと考える。よって、本件については不採択と決した。			
4	国保の資格証明書交付について	島根県 社会保障推進協議会 会長 池淵 栄助	継続審査	挙手多数
5	就学前までの子どもの医療費無料制度を求める意見書の提出について	日本共産党益田市委員会 市委員長 下寺 共子	採 択	挙手全員

陳情番号	件 名	提 出 者	議決結果	議決態様
1	通学路の路肩舗装について	西益田小学校PTA 会長 植木 誠司	採 択	挙手全員
2	西益田小学校体育館トイレの改修工事について	西益田小学校PTA 会長 植木 誠司	採 択	挙手全員
3	肝炎対策のための基本法制定を求める意見書の提出について	薬害C型肝炎しまね弁護団 代表 妻波 修一郎 外1名	採 択	挙手全員

問 中山間地域対策事業の目玉になる事業は。

答 市長会を通じ、県への要望を行っている。総務省の意見交換会、県の勉強会には部長を派遣し総務省等へ、引き続き要望していく。

中山間地域の再生と活性化



林 卓雄 議員

問 中山間地域の振興目的で策定された現行の過疎法が、今年度末で期限切れとなるが本市の考えを問う。

答 中山間地域の振興目的で策定された現行の過疎法が、今年度末で期限切れとなるが本市の考えを問う。

問 中山間地域等直接支払制度の恒久性、継続について問う。

答 この制度の重要性は全国共通の認識であり、今後も引き続き、いい形で存続をされるように要望していきたい。

問 総務省の集落支援員が本市は現在1人である。増員の考えがあるか問う。

答 増員も含め、地域にとってどういう形がいかを検討していく。その中で地区振興センターのあり

答 外部の人材を呼び込む地域づくり支援事業で、地域の活性化を進めていく。既存の発想でない人材を入れることが大事である。さまざまな事業を進めながら、農林業の振興に努めていきたい。

一般質問

市政のここが知りたい

市民の声を代弁する 一般質問の掲載について

一般質問の記事は、決められた文字数のなかで、議員本人が要約し掲載しています。なお詳細については会議録をご覧ください。

方、地域振興の方法を総合的な観点で見て、集落支援員のあり方を考えていきたい。

問 鳥獣被害防止計画に関わる被害対策協議会の協議会員に生産者の代表を入れないのか。

答 どの生産者の団体に入っていたかどうかが一番有効かを十分検討し、何らかの措置を講じたい。

問 東京で開催された「新・農業人フェア」の受け入れ先を整えているのか。

答 畜産、施設園芸など受け入れ可能な農家を押えている。農業以外の受け入れについても含め検討する。

問 益田ブランド認証制度の効果は。

答 販売促進の観点でいえばまだ十分ではないが、事業者の方とも話をしながら、有効な手だてを講じていきたい。



有害鳥獣（サル）を捜す猟友会

定住ビジョンの策定を

問 定住促進ビジョンの策定はしないのか問う。

答 定住対策は、雇用・教育・医療・福祉・住まいのさまざまな幅広い対策が重要である。窓口の一本化については、庁内の体制を含め今後早い時期に発足出来るよう検討する。

問 機構改革の視点から、体制の強化、迅速性、機動性はどうか。

答 機構改革の有無にかかわらず成果は上がっていないので、さまざまな対策を打っていく。

文化・観光・交流事業の充実

問 益田糸あやつり人形の市としての財産の位置づけを聞く。

答 全国でも唯一のきわめて貴重な文化財であり保存に向けて取り組みたい。

問 糸あやつり人形の担い手づくりを市はどう取り組んでいるのか。

答 今はやっていない。

問 平成20年度の益田市の観光入り込み数は、県下8市の中でも減っている。ETCの割引制度を利用して入り込みの作戦をしたのか。

答 ETCの割引制度を特に意識した取り組みはしていない。



佐々木 恵二 議員

地場産業と経済対策

問 益田市内3カ所の各給食調理場の特性を生かし、今後経費の面だけでなく地場産業育成・食育・就労という面を考慮しながら、老朽化の対応をすべきと考えるがいかがか。

答 平成21年度中に、学校給食衛生管理基準に則した施設の建設の基本計画を策定するが、意見も踏まえ検討する。

問 地域商品券の今後について、日本一清流高津川商品券の反省もしながら、また津和野・吉賀も含めた地域の連携をとる方向で



益田産天然ハマグリ

対応してはいかがか。
答 日本一清流高津川商品券のネーミングは地域財産として、高津川の名称を浸透するチャンスになったと感じる。今後は経済団体と連携しながら検討したい。

問 鮎・ハマグリ・わさび・柚子の資源を、積極的に、市として取り上げなくてはならないが。

答 益田市の貴重な資源であると認識している。行政・経済団体など連携して販売促進を図っていく必要がある。

問 ハマグリが、近年収穫増であり、県としても対応に積極的に取り組む姿勢を持っているが、市としての対応も求めるがいかか。

答 本市の海の財産であると考え。天然の財産を有効活用していく上でも、国・県との役割分担も含め、市としても責任を果たしていく。

問 国の交付金事業で、ケーブルテレビ事業が該当になると聞くが、市として対応はどうするのか。

答 国の予算の中で対応できるものとして、ケーブルテレビの情報基盤整備は重要で、今後取り組んでいく。

市有地財産の有効利用

問 横田の土地、競馬場跡地の有効利用と、あけぼの市有地の南北連絡橋の整備の方向性について問う。

答 地元、西益田地区からの要望のある横田の市有地については、結論が出ていないが、有効利用

出来るように検討を進めている。競馬場跡地は、土地開発公社が宅地造成整備後に、売却の方向で検討する。南北連絡橋については、2案のルートで、整備手法として6案があり、約6億から9億の事業費と考え、出来る限り早期実現に向けて検討していく。

問 中山間地域の市墓地公園、空地なしの状況において対応はいかか。

答 美都地域の市墓地公園は、空きがない状態で、UIターン者等の方にも必要であると思うので、今後需要の予測を含め、様々な角度から検討していく。



安達 美津子 議員

より良い放課後児童クラブに

問 国のガイドラインでは、児童1人当たり概ね

1・65㎡以上の面積を確保することになっている。今年度の事業要項では、この項が削除された。再度盛り込むべきでは。

答 来年度からは盛り込む。

問 特別な支援が必要な児童の受け入れについては積極的な対応が必要では。

答 施設改善や指導員の配置などの体制整備に努めていく。

問 来年度から、保育所や幼稚園から小学校に保育要録を提出することになった。その要録を放課後児童クラブにも開示できないか。

答 確認し、できるものであればやっていきたい。

問 市が主催して指導員の研修会を行った際に、別途賃金を支払うべきでは。

答 検討する。

問 高津や吉田の新規開設場所は、来年3月まで借りられる契約となっていると聞く。それ以降の対応は。

答 今年度は、就学前検診の時期を目的に保護者のニーズを把握していきたい。安全・安心して過ご

せる場を確保していくために、適切な場所の確保が必要と考える。地域内の情報把握に努めていく。

介護保険の見直しを問う

問 4月実施の新しい要介護認定制度で要介護度が変わった場合、希望で従来の要介護度を継続できる経過措置を作った。そのために従来の要介護度を希望した場合、新制度による判定結果については利用者には知らせないこととなっている。

新制度による判定結果を利用者に知らせるべきでは。

答 判定結果については市民に十分説明していきたい。

問 美都・匹見の福祉施設の指定管理料の積算根拠は、運営費の赤字部分を指定管理料で補うと解釈してよいか。

答 よい。

問 他の福祉施設



学校給食調理場内の様子

の指定管理料もこのような積算根拠になっているのか。

答 他の施設ではない。

問 美都は年々剰余金が増え、20年度は1億円を超えている。指定管理料の検証が今後必要ではないか。

答 今後検討していく。

豊かな学校給食を

問 PFI手法におけるコンサルタントの成果品の中で、既存委託先へヒ

アリンクグを行っている。その中に「供給能力的には今の当社の設備でも対応可能であり、すべて当社に委託していただいてもやれる自信はある。」という回答が載っている。このコメントについてどのように考えるか。

答 意見として聞くだけである。

問 同じヒアリングの中に、「献立は共同調理場と同じだが、食材の調達とは別々で行っている。昨年までは市から指定された食材を購入していたが、コストが合わなかったため、別々での調達となった。」とある。食材の調達はどうかっているのか。

答 委託当時から現在の食材の指定方法は変わらないので、コンサルタントの報告を再度検証する。



久城 恵治 議員

若者の定住とまちづくり

問 若者定住について、市として希望の持てる具体的な政策や取り組みは考えているか。

答 定住対策は、まちづくりそのものであり、まちの総合力が定住を決める。地域づくり支援研修生等、個別に対応はしている。

問 まず、まちづくりに対するビジョンを明確にするべきであり、今後、外貨を獲得するためには、「観光を中心とした交流人口の増加」と「面積の大半を占める森林資源の有効利用」が大きな柱になると思う。その事は、すなわち、「益田川と高津川を中心としたまちの活性化を意味していると思

うが、市長の考えは。
答 とても重要な事だと思う。ご意見を聞きながら、一流の田舎まちづくりのために、みなさんと共にやっていきたいと思う。

機構改革と政策

問 「機構改革のメリット・デメリット」について現段階での市長の感想は。
答 まだ数カ月の段階で

は、良い・悪いの判断はできない。それぞれの部署で戸惑いもあるが、その目的に沿うように努力している。その中で、危機管理室、市民サービス課、都市デザイン課は、より積極的な対応となっていると思う。

現在の益田市政の問題点は

問 椋木副市長が就任3

カ月目において感じている益田市政の課題をお聞かせ願いたい。

答 来年度が、福原市長のカラーの出る予算になると思う。特に私がトップとなり、事務事業の見直しを行い、市の単独補助金について福原カラーがでるように、身を精査していきたい。



中世の食再現プロジェクト



山根 哲朗 議員

美都温泉のこれからを問う

問 平成3年5月3日に「湯元館」がオープン。平成6年に道の駅「サンエイト美都」がオープン。その後は何も無く今日を迎えている。

そこで、最近人気の高い「足湯」の施設あるいは、子どもの遊びをテーマにしたような湯の施設を作ってみるなど、次の展開へ取りかかり、新市建設計画の実現へ向かっていつてはどうか。

答 美都温泉にとって必要なものであり、効果が見込まれるものであればお金がかかっても実施の方向で検討してみるべきだと思う。



地域資源の掘り起こしと見直しに精を出そう

問 いろいろな題材がある中で、大きいことを掲げても取り組みが難しいと思う。この地域にあるもの、山野に自生しているもの、そこに目を当てたいと思っている。

この地域を、市長の言われる町づくりを進めるという点で見ると、自然



火傷に効くアカメガシワ

問 確かにそうだと思うが、今の地域力というのはそのきっかけを求めているように思う。そこが市民と行政の協働という信頼関係というか、行政として失ってはいけない部分である。

誰かがというのではなく、行政も一歩前に出るから貴方も前に出てきてください。と、この

の中にあるものを取り上げるのが現実だし、市民自身が実行して喜び、そこへ行政が仕掛けをするということが大切だと思うが市長の見解はどうか。

答 まったく同感である。行政があれこれ言って市民が実行するよりも、市民の様々な活動を行政がバックアップする。もしくは、そういう方向に行くような環境を整えるということが、行政の仕事だと考えている。



永見 おしえ 議員

農林水産関係事業への取り組みについて

問 本市の農業の現状についてどのような認識を持っているか。

答 農業は厳しい課題を抱えている現状があるが、本市の農業の強みをいかに生かすか。また、加工等で付加価値をつけていくことが重要と考える。

ことを市長に訴えて欲しいと私は申し上げているのだが。

答 行政がやらないと言っているのではない。最初から行政にやってくれという話ではない。個人でできなければ地域全体でここまではやろうと、それができないのでここは行政にお願いするという話にならないといけない。



荒れはてた田畑

問 JAとの連携の方法については。

答 かゆいところに手が届く施策、今どきの課題を意見交換して、行政としてどういう支援が適切か改めて検討したい。

問 漁協との連携の中で、どのような支援が必要と考えるか。

答 漁業振興を含めて、お互い率直な話し合いの中で、後継者対策により有効な手法が見出せるよ

うなら、一生懸命対応していきたい。

問 身近な自然の教材を活用できるようにしたいがいかがか。

答 体験することによって職業選択の際に参考になるし、一たんな都会に出ても、いつの日かUターンして、農林水産業に従事したいとの思いにさせようと思う。

環境対策の強化について

問 これからの環境問題の取り組みについての考えを問う。

答 豊富な森林資源、環境に活用できる資源がある。今後環境先進都市としての取り組みを強化していく。

問 住宅用の太陽光発電の導入支援対策費の補助金制度について、市長の

考えを問う。また、HPに環境コーナーを作ってはどうか。

答 環境プロジェクトを立ち上げていきたいと考えている。その中でどう位置づけるかということを検討していきたい。環境コーナーについても担当部署と協議、検討したい。

問 国が公立の小・中学校に耐震化と合わせて太陽光発電パネルの設置を打ち出している。これからの計画は。

答 耐震化事業計画や維持補修計画、今後の学校整備計画において、太陽光発電パネルの整備について検討したい。

問 7月7日のクールアース・デーの今年の取り組みは。

答 当日をノー残業デーとして、市自ら積極的に取り組みを進めていく。そのほか教育委員会や指定管理施設など、関係の団体施設にも働きかける。

問 家庭や公園の芝生化が進んでいる。「鳥取式」の研究、検討をしていた

だきたいがいかがか。

答 芝生化の導入については関係者の意見を聞く。先進校の視察、研究、調査、検討する。



松原 義生 議員

医師不足問題について

問 昨年、益田赤十字病院が里帰り出産の取り扱いを見合わせたが、産科診療所の対策が非常に重要だ。市の見通しは。

答 診療所の分娩再開に向け、県や医師会の助言、情報収集し、どうしたら再開できるか、診療所の院長の話を聞き検討している。

問 今後女性の医師を招き入れようとすれば、院内保育対策が欠かせない。院内保育についてどう議論しているか。

答 今後は女性医師が増えることから、施設の必

要があると考えている。日赤病院とも、また保育関係者とも議論をし、協議して実現できるように考えたい。

新学校給食調理場建設について

問 施設の概要は。

答 教育委員会と協議中。現在具体的にお答えできない。

問 アレルギー食の問題について、相当な設備を持つてやられる考えか。

答 アレルギー食対応には除去室が必要。アレルギーはたくさん種類があり、全部は難しい。これからの検討課題である。

問 地産・地消については、今度の施設の中で具体的にはどのようなになるのか。

答 現在、給食数に見合う可能



地産地消の取り組み

な益田産の食材を事前調査の上100%、また使用数量を調達している。今後、約5,000食であっても使用できる益田産の食材の調達は可能と考える。

問 8月に策定される「食育推進計画」が反映されているか。

答 現在検討中の「食育推進基本計画」との整合性は当然図るが、学校給

食法の理念に基づいた益田市ならではの食育について今後検討したい。児童、生徒たちや保護者、地域の方々が給食センターの視察ができたり、あるいは試食会、職場体験学習とか調理実習とかも食育として考えられ、そういうことも含めた検討をしている。



波田 英機 議員

周辺地域の一般診療所について

問 病院と診療所の連携が叫ばれているが、周辺部の開業医のいない地区の診療所の実態と対応について問う。

答 市民の安心・安全の確保と地域振興、定住の面からも重要である。実態把握について不十分な点があり、先生方のお話や地元の話の伺い課題解決に努めたい。

問 美都・匹見地域には市の管理する診療所があるが、11地区には医師が不在である。管理等について問う。

答 かかりつけ医を呼びかけている中で無医地区の発生も危惧される。勤務医の確保だけでなく幅広い取り組みと維持管理についての支援を検討したい。

問 公民館のアンケート調査で、半数以上の方が医療福祉のサービスについて不安であると回答している。今後の対応は。

答 地域の安心・安全確保の上で大切だ。定住問題、交通体系など庁内各部署が連携し情報の共有を進める。

国営土地改良事業の今後

問 国営対策室の取り組みを問う。

答 設置して3年経過した。主な業務は国営農地の分担金徴収業務と農地の利用促進、農商連携に取り組んだ。



開パイの休耕地

1年で1億2、700万円も減少した。未納額の回収との関連は。

答 関連はあると思う。販売額を上げるため、更なる努力が必要である。

問 新たな対策会議を設置し、財政的支援や経営指導を行っていく必要があるのでは。

答 今後、関係課の中で検討しなければと思う。

中世の文化交流事業について

問 歴史を活かしたまちづくりで、史跡調査から新たな段階に來ていると思うがどうか。

答 平成6年の計画策定から15年経過した。道路整備と国指定は達成したが地区の整備、歴史ゾー

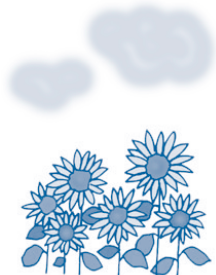
ン等の整備は未着手の状態である。今後の進捗に合せた計画の見直しも必要だ。

問 大内氏、益田氏の指導で乙子町の佐毘売神社から大森銀山の佐毘売神社に1380年に分祀した。今民間交流が進み大田市と益田市の間でサミットの計画があるが御存知か。

答 9月20日である。大森地区の著名な企業の社長からサミットのこと、益田と大田のつながりを大事にしたいとお聞きした。

問 次のサミットは益田開催ではどうか。

答 鉾山のつながり、中世のつながり、石見銀山と石見空港をつなぎ地域全体の利益となる。佐毘売山サミットは大きな御縁の一つだと思う。



第三セクターの現状と今後の課題について



大久保 五郎 議員

問 厳しい経済状況の中、第三セクターへの認識について問う。

答 地域の振興を図る中核事業として、住民サービスへの補完、雇用、市民福祉の向上に寄与するそれぞれの設立目的に沿った事業として事業展開していただいている。事業の見直し等課題はあるが、努力に対して応援していく。

問 市は第三セクターの破綻により、代償も払ってきた。財政健全化への取り組みを問う。

答 数値基準の鵜呑みは危ない。危機感を持つ経営が重要である。

問 (株)益田市総合サービスは市政の補完団体、また三セク破綻による債務



第三セクターの経営するレストラン

返済を目的として設立された。社員の給与が大変低いと指摘してきたがいかか。

答 市の補完団体として施設の運営、業務を担っていただいている。特に給与水準が低いと痛感し、今回委託料を引き上げるなどの対応をした。

問 (株)ひきみ、(株)エイトの健全経営の取り組みについて問う。

答 市から役員を派遣している。市民との協働組織、中山間地域の活性化に繋がるよう経営内容を吟味していく。

活力あるまちづくり

問 駅前賑わいづくりのために朝市や直売所等の設置などその取り組みについて問う。

答 益田の駅前には市場の文化がある。具現化に向け検討、応援していく。

問 JR南北連絡橋実現について問う。

答 出来るだけ早く実現していきたい。

問 南北連絡橋建設予定地の土地は市の所有である。グラントワ駐車場としての活用は考えられないか。

答 提案も含め県と一緒に駐車場対策に取り組んでいく。

森林を活用する振興策について

問 国の緊急経済対策、森林整備加速化林業再生事業における市の取り組みについて問う。

答 協議会を立ち上げ、森林組合、事業体を含め協議していく。

問 今回の補正の中身について、市の経済対策プロジェクトが寂しく感じられるがいかか。

答 率直に受け止める。緊急対策を活用して、攻め、チャレンジする益田市に早く転換していく責任があると考えている。

問 2年連続水質日本一に輝いた清流高津川を記念して、今こそ全国清流サミットを開催すべきビッグチャンスと考えるがいかか。

答 高津川サミットの開催は可能であると思う。圏域行政、民間団体等と相談し考えた。



福原 宗男 議員

職場復帰支援のあり方

問 自殺者は98年以来11年連続で3万人を超えるという状況になっている。島根県は自殺率が全国で

4位、未遂者は既遂者の推定10倍に達すると言われ、益田圏域は県内で2位になっている。先日、自殺予防週間における「こころの健康」講演会が開催され、松ヶ丘病院院長がうつ病についての講演をされた。その中でも、「うつが一番多い」、「復帰がなかなかできない」と話をされていた。職場復帰するための施設としては、島根障害者職業センターが、松江にあるが、その施設の機能の一部だけでも、益田の訓練校に入れるよう、国・県に働きかけてはどうか。

答 西部高等技術校は、平成23年に開校予定である。この整備に向けて、障がい者のための訓練課程が検討されている。



西部高等技術校造成工事



医療対策

問 癌検診、特に乳がん検診の受診率が低いがその原因は。

答 医療機関の受け入れ人数や検診車による検診日数も大変少ないことも原因となっている。

問 自覚症状のない人に「検診を受けて」と説得するのは大変と思うが。

答 医療機関の受け入れ枠を設けない。受診しやすい時間帯、夕方、土日の受診対応やセット検診など必要と思う。

問 特定健診について平成24年、65%を目指す訳だが、個人負担が高いのでは。

答 目標の65%まで急に上げられるか、かなり厳しい。料金を含め考えていく。

問 益田市では、生活習慣病と言われる以前から先進的な取り組みがなされているが、現実の数字は厳しい。県から、訪問指導をする指摘があっても手いっぱいではないか。

という現状もある。民間でできることは民間でというような時ではないのではないか。

答 行政でしなければいけない部分で、必要があれば行政職員でどこに力を入れるかを考え、事業の見直しをする。

問 本市の受診率目標は平成24年65%、平成27年80%となっているが実際の受診率は低い。乳がんは治癒するまでに300万円以上かかることから、早期受診が必要である。

医療機関が少なく、医師も少ない中で、忙しいから受診を後回しにしてしまいがちだ。病気の自覚がない人に受けさせるのは大変なことだ。その人たちが受診にどう振り向かせるかマンパワーが必要だ。

生活保護対策の実態

問 生活保護の相談も大

変増えている現状がある。職員の人数を確保しなければ現場は対応できないのではないか。

答 行政でやらなければならぬことは行政でやる。とにかく本当にやるべき仕事に振り向けていきたい。



澁谷 勝 議員

危機管理について

問 住民の高齢化、交流の拡大の中で最近の異常気象や異常気象災害に対して、より高度かつ迅速な対応が求められている。本市は新たに危機管理対策室を置いたが、この位置付けと防災力強化について問う。

答 危機管理対策室は、ゲリラ豪雨や新型インフルエンザ等の様々な情報収集に努める。地区の防災訓練等、地域防災リ



防災訓練の様様

ダーの育成も合わせて、今後、対策室の内部強化を検討している。

問 本市は県内一広く通学時間や距離等、多様な通学環境を持つが、ゲリラ豪雨の如く短時間で来襲する災害に対し、緊急時には誰が判断しどう対応するのか。

答 防災気象情報に基づき、各学校で定める危機管理マニュアルに従って対応している。また、危機管理対策室と連携し、必要があれば学校毎に作

成している安全マップでの危険個所で、教職員が通学指導することとなっている。通学路の変更等はすべて校長の判断で対応している。

問 季節性インフルエンザは高齢者の重症化に比し、新型では基礎疾患患者（糖尿病やゼンソク等）の重症化が一般的に言われているが、本市の状況と対策を問う。

答 国民健康保険被保険者の糖尿病の受診件数は778件である。島根県

の有病率は全国でも高く、県内市町村の中で本市は3番前後と高い受診率を示している。この対応には、通常以上の予防とかかりつけ医への相談、新型ワクチンの優先接種等を含め、国・県の情報をきちんと提供している。

水産物ブランド化

問 ハマグリの漁場拡大への調査について問う。

答 ハマグリについては今年度は資源調査を予定し、県もハマグリの漁場調査を検討されるようで、市としても増産と生息水域の整備につながる活動を進めていきたい。

問 県の高津、益田両河川のBOD調査（水中の微生物が有機物を分解するときに必要な酸素の量、数値が低いほどきれいな水）で、値が高いのは益田川の月見橋近辺のみで、あとは全て低い状態にある。益田川上流にはアユも生息しており、高津・益田両河川の清流化は益

田ブランドへの相乗効果と思うが、益田川の清流化への考えを聞く。

答 益田川の下流域をいかにきれいにするかが大変重要な鍵を握ると考える。先般の公共下水道の一部供用開始や、旧益田地域の合併浄化槽の補助制度の予算付け等、益田川のより一層の清流化に努めて行きたい。



河野 利文 議員

放課後児童クラブの充実を

問 小学生の放課後の過ごし方の現状について、どう認識しているか。

答 子どもにとっての放課後は、自分が子どもの頃と比べても大分変化をしているのかなというような感をもっている。問題点として、活動場所の不十分さ、活動ごとの連

携のなさなどを把握している。地域一体となって子どもの育ちを支える地域づくりを推進していくことが重要だ。

問 認識として重要度が低いと感じる。放課後児童クラブの重要性は非常に高くなっている。次年度の入会児童のニーズについては現状でどう把握しているか。

答 10月までには人数をつかみたい。

問 入会への潜在ニーズは高い。10月では対応が遅れるのではと思うが。

答 これまでの見通しが甘かったことは否定できない。人数の把握は今から準備と検討をするよう既に指示をしている。

キャリア教育の体制づくり

問 若者が帰って来られる産業づくり、住み続けたいと感じる地域づくり、帰って来たいと考える人づくりにより、人材のサイクルをつくる必要がある。人づくりとい



修学旅行での菰・石見空港利用

う意味で、キャリア教育の具体的な取り組みを問う。

答 小学校では、実際に事業所へ出向き、働く人々の仕事ぶりを見学するなど進路の選択に係る基盤形成を行っている。中学校では、職場体験学習や上級学校について調べ、訪問するなどのキャリア教育に取り組んでいる。

京便利利用率の目標設定は75%と非常に高い設定だ。キャリア教育の中で、地方で育つ子ども達だからこそ全員修学旅行で東京に行くという仕組みをつくるべきではないかと考えるが。

答 最近では、旅育という言葉もあり、大変有意義な提案と考える。庁内で活用についての指示をしたい。

採用方針と人材育成の計画

問 平成22年度の採用方針について6月には方針を公表すべきと願っていたが、方針は出ているか。

答 今年度中に、新しい定員適正化計画を作成することとしており、計画をもとに今後の採用について判断をしていく。

問 定員適正化計画はいつまでに出来上がるのか。

答 できる限り急ぎたい。採用する場合



には、民間の経験のある方を中心に採用したいと考えている。

問 人事評価制度の進捗状況と制度設計の具体的内容は。

答 これまでに2回検討委員会を開いた。基本的な考え方としては、人材育成型の人事評価制度とし、具体的な制度設計の特徴としては、能力評価と業績評価の2本立てと考えている。評価の仕組みとしては、全職員が本人評価を実施し、評価者によるフィードバック面談を行うことなどを申し合わせているところである。遅くとも8月までに制度設計をつくりたい。

第2回 萩・石見空港マラソン 全国大会を盛り上げましょう！

2008年10月19日に有森裕子さんと益田市出身の下森直さんをゲストランナーに迎えて行われた第1回萩・石見空港マラソン全国大会で、益田市議会としてTシャツ・タオルの販売やゴール地点での誘導などのボランティアで大会を応援しました。

今年も10月18日に行われる第2回萩・石見空港マラソン全国大会を全力で応援します。皆様の参加をお待ちしています！

第2回 萩・石見空港マラソン全国大会 10/18 雨天決行 日

参加者募集！ 定員 3000名 (全種目合計)

9月11日申込締め切り

お申込はお早めに！



※なお定員になり次第締め切ります。

ハーフ	10km	5km	3km	2km	77ミリー
1000人	500人	600人	300人	300人	300組

【お問合せ】

益田市常盤町1番1号
文化交流課内空港マラソン推進室
TEL(0856)31-0648
FAX(0856)23-4655
ホームページアドレス
<http://www.airport-marathon.jp>

編集後記

私は毎年8月6日に広島へ行く。平和記念式典参加と、原水爆禁止世界大会に参加するためだ。

また、この日は平和記念資料館が無料開放になる。四年前、娘と一緒に資料館を見学した。今年その娘も六年生になり、修学旅行で広島を訪れた。総合学習で「平和な世界の実現のためできることを提案するプロジェクト」の提案を兼ねての旅行である。

私達が子どもだった時代に比べ、学校で平和の問題に取り組む姿勢が強く感じられるようになった。この姿勢は今後も続けていって欲しい。

資料館で一番印象に残っているのは、猛火の中母親が四つん這いになって子どもを守る一枚の絵だった。圧倒的な母親の愛に涙すると同時に「戦争を繰り返してはならない」との思いでいっぱいになった。本年、オバマ大統領がプラハで「核兵器のない世界」への協力を世界の人々に呼びかけた。核兵器廃絶への大きな一歩である。

安達 美津子



◆◆ 編集委員 ◆◆
委員長 永見 おしえ
副委員長 河野 利文
委員 安達 美津子
委員 中島 守

この議会だよりは再生紙を使用しています。